

すっきりと孤高のマツバウンラン

ご近所で、造成後売れ残った区画にふと目をやると、紫色の花がたくさん咲いていた。横幅10ミリ足らずのごく小さな唇形花。

これがマツバウンランとの最初の出会いである。その後幅広い土手や線路脇など、いろいろな場所でまとまって咲き、風にそよぐのを見た。ただ、翌年出かけてみると、まばらに咲くのみ。なぜ衰えるのだろうか？

この植物は、園芸品種のリナリアと何もかもそっくり。同じウンラン (Linaria) 属である。マツバウンランは北アメリカ原産という。長いさすらいの旅をほうふつとさせる。

1株をこっそり自宅の庭に持ち帰ったが、いまではすっかり殖えて、春になると、庭のあちこちに生えてくる。連作が良くないということもなさそうだ。





~~~~~